

2024年11月8日

各位

会社名 富士石油株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 山本重人  
 (コード番号：5017 東証プライム市場)  
 問合せ先 経理部長 祖父江高明  
 TEL：03 - 6277 - 2906  
 URL：https://www.foc.co.jp/

## 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2024年8月9日に公表の2025年3月期中間期の連結業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2025年3月期中間期連結業績予想との差異 (2024年4月1日～2024年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2024年8月9日発表)	431,300	2,900	3,200	100	1.30
今回発表実績 (B)	427,190	△14,570	△13,681	△16,157	△209.32
増減額 (B-A)	△4,109	△17,470	△16,881	△16,257	
増減率 (%)	△1.0	—	—	—	
(ご参考) 前年同期実績値 (2024年3月期中間期)	319,711	12,250	13,566	11,209	145.27

#### 2. 差異の理由

前回の予想は、第2四半期連結累計期間のドバイ原油価格を82.6ドル/バレル、為替レートを152.9円/ドルの前提で策定いたしましたが、同期間のそれぞれの実績は、81.8ドル/バレル、152.8円/ドルとなりました。

第2四半期連結累計期間においては、特に8月から9月にかけて、原油価格が急落したことや、急速に円高が進行したことから、在庫影響(総平均法及び簿価切下げによる棚卸資産の評価が売上原価に与える影響)が125億円の原価押し上げ要因(前回予想は18億円の原価押し下げ要因)となったことに加え、原油価格急落局面において製品価格の負のタイムラグが発生し、製品マージンも縮小したこと等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益について、前回予想を大幅に下回る結果となりました。

以上